

令和3年度

事業報告書

社会福祉法人 中日新聞社会事業団

目次

はじめに	1
沿革	2
寄付件数等一覧	3
本部	4
北陸支部	12
東海支部	15
東京支部	20
岐阜支部	23
中日青葉学園	27
あおば館(児童養護施設)	33
わかば館(児童心理治療施設)	36
子育て短期支援事業	43
社会福祉充実計画	44
地域における公益的取り組み	45
里親フォスタリング事業	46
高額寄託者・一般	47
高額寄託者・指定	49

▶ はじめに ◀

社会福祉法人中日新聞社会事業団は本部並びに北陸、東海、東京、岐阜の4支部にて、社会福祉事業や公益事業への助成など地域に根差した幅広い活動を行っています。

愛知県日進市で運営する児童養護施設「あおば館」と児童心理治療施設「わかば館」からなる中日青葉学園は、昭和35年に虚弱児施設として開設以来、多くの社会的養護の対象児童の健やかな育ちと自立を支援してきました。

令和3年度は、入所児童が通う小学校の目の前に、分園として住居棟2棟と管理棟を建設し、うち1棟で1月から女子児童6名が職員と共に地域での生活をスタートしております。また、管理棟では、近隣の皆さまの福祉ニーズに応えられるような設備を備えました。

新型コロナウイルス感染症拡大にともない、本年度も数多くの事業が中止や延期、縮小となりました。当事者の方々やそのご家族、支援者の皆さまの活動に大きな影響と制約が続いており、皆さまの活動を支援するという我々の活動もコロナ禍前と比べ、大きく縮小せざるを得ない状況となっております。

大きな社会情勢の変化に柔軟に対応し支援の質を維持するため、今後につきましても様々な情報化等への取り組みを続けて参りたいと思います。

日頃より、ご支援、ご協力をいただいている皆様方に感謝を申し上げ、透明性のある法人運営、事業展開を通じ、一層地域に根ざした社会福祉法人を目指していきます。

令和4年6月

社会福祉法人 中日新聞社会事業団

▶ 中日新聞社会事業団の沿革 ◀

社会福祉法人中日新聞社会事業団は、昭和11年12月設立の財団法人名古屋新聞善行会、翌年4月設立の社団法人新愛知社会事業団から始まり、社団法人中部日本弘徳会を前身とし、社会福祉法人中部日本新聞社会事業団を経て、昭和49年に現在の名称となった。昭和32年の事業団創立20周年を機に虚弱児施設の建設を決め、昭和35年、愛知県日進市に「中日青葉学園」の運営を開始した。

現在、施設経営のほか、本部、北陸・東海・東京・岐阜の4支部において年間228件の主催、共催、後援事業を行っている。障害者や難病者の自立、社会参加への支援、生活保護家庭や施設入所児童の援助など地域福祉から災害地支援まで、幅広い社会貢献を行っている。

昭和18年 7月	財団法人「名古屋新聞善行会」と社団法人「新愛知社会事業団」が合併し、社団法人「中部日本弘徳会」を設立
昭和21年12月	社団法人「中部日本新聞社会事業団」を設立
昭和26年 2月	同「中部日本新聞岐阜社会事業団(後に中日新聞岐阜社会事業団に改称)」を設立
昭和34年 1月	沢井秀次氏と日進町岩崎区から土地(13,034㎡)の寄付を受ける
昭和35年 4月	虚弱児施設中日青葉学園として児童定数30人、職員7人で事業開始
昭和35年 7月	社会福祉法人「中部日本新聞社会事業団」として厚生省から認可
昭和37年 1月	中日青葉学園を増築し、児童定数70人に増員
昭和49年 6月	社会福祉法人「中日新聞社会事業団」と改称
昭和54年12月	中日新聞社会事業団北陸支部(金沢市)を設立
昭和57年 3月	日本自転車振興会の補助と社会福祉・医療事業団から建設資金を借り入れ、中日青葉学園全面改装
昭和58年11月	中日新聞社会事業団東海支部(浜松市)を設立
昭和59年12月	年末助け合い運動の一環として、美術品チャリティー販売の「第1回郷土の美術家100人展」を松坂屋本店で開催する
昭和63年 3月	中日新聞社会事業団東京支部(東京都千代田区)を設立
平成10年 4月	児童福祉法の改定により児童養護施設中日青葉学園となる
平成12年 5月	社団法人「中日新聞岐阜社会事業団」解散 中日新聞社会事業団岐阜支部(岐阜市)として設立
平成12年 6月	「中日福祉ボランティア賞」(愛・三・岐対象)創設
平成15年10月	中日青葉学園の新園舎が竣工し、児童養護施設に児童心理治療施設を併設、複合施設として新たなスタート
平成18年 3月	日本自転車振興会からの補助で小・中学校青葉分校新教育棟新築
平成29年	事業団創立80周年を迎える
令和 2年 6月	青葉分校特別教室棟新築
令和 3年12月	中日青葉学園の分園「三つ葉」竣工

《主な災害義援金》

☆阪神大震災義援金	平成7年 1月18日～8月18日	84,104件	5,790,979,873円
☆東海豪雨災害義援金	平成12年 9月24日～11月10日	2,209件	421,966,342円
☆新潟県中越地震義援金	平成16年10月25日～17年 3月31日	7,865件	663,011,769円
☆新潟県中越沖地震義援金	平成19年 7月17日～12月13日	1,490件	120,294,971円
☆東日本大震災義援金	平成23年 3月12日～31年 3月31日	95,339件	9,088,915,451円
☆熊本地震義援金	平成28年 4月15日～6月30日	13,932件	1,091,554,693円
☆西日本豪雨義援金	平成30年 7月10日～8月10日	9,240件	529,263,200円

事業件数

	主 催	共 催	後 援	合 計	うち中止・延期
本 部	5	12	78	95	14
北陸支部	5	1	1	7	1
東海支部	10	0	5	15	0
東京支部	1	0	4	5	2
岐阜支部	2	2	13	17	6
合 計	23	15	101	139	23

寄付金収入一覧

(単位：円)

	本 部		北 陸 支 部		東 海 支 部		東 京 支 部		岐 阜 支 部		合 計	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
一 般 寄 付 金	547	81,981,363	35	286,770	51	375,043	27	811,332	40	1,048,839	700	84,503,347
年 末 助 け 合 い	305	23,463,363	26	543,774	57	2,701,561	75	1,194,327	88	2,604,104	551	30,507,129
指 定 寄 付 金	25	6,800,894	0	0	3	217,175	2	58,056	0	0	30	7,076,125
合 計	877	112,245,620	61	830,544	111	3,293,779	104	2,063,715	128	3,652,943	1,281	122,086,601

※令和3年度は、災害義援金の募金を実施していません。

イメージキャラクター「ロボラ」



80周年を記念して、制作したイメージキャラクター「ロボラ」です。

困っている人に手を差し伸べる、心優しきコアアラ型ロボットヒーロー！

体には人助けのためのあらゆる機能が搭載されている。とっても温厚で、おっとりした性格。しかし困っている人がいたら、どんなことがあってもたすける！と心に誓っています。

▶ 本部(名古屋) ◀

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、リモート等を活用し、支援を希望する団体との連絡、調整を実施。コロナ禍でも当事者の方々の福祉が低下しないように検討したものの様々な事業が中止となり、例年約200件実施している主催・共催・後援事業は、81件の実施にとどまった。一方で、法人運営が円滑に進むよう、各支部とは緊密な連絡をとりながら取り組みを実施した。

◇社会福祉事業

(1) 児童福祉施設等支援事業

・ 離島自然体験活動（11月7日・篠島）

ファミリーホーム（小規模住居型児童養育事業）で生活する子ども達が、篠島で自然体験を行った。

8月に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で11月に延期され実施された。

海水浴ができず残念がる児童もいたものの約45人の児童と養育者が釣りや砂浜での遊びを楽しんだ。

共催：愛知県ファミリーホーム協議会ほか

愛知県児童福祉施設長会や名古屋市児童養護連絡協議会などが主催する、文化、スポーツ事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となる事業が多かったが、規模を縮小して開催された事業に関しては共催、後援事業として支援を行った。



砂浜で海に触れる子ども

(2) 社会福祉施設への助成

社会福祉充実計画の一つとして、中部・関東地域の児童養護施設、小規模住居型児童養育事業、生活介護支援事業など10団体に助成金を配分した。

◇公益事業

(1) 研修会・講演会・講座の開催、支援事業

a. 児童

・ 交通遺児支援事業

「交通遺児のために役立てて」と個人や企業から寄せられた寄付金をもとに交通事故で親を亡くした子どもたちを励ますために行う支援事業。東海交通遺児

を励ます会が把握している遺児は東海三県で約500人。今年度は、恒例となっている大相撲招待、サマーカヌースクールなどの主要行事は中止となったが、「第54回交通遺児を励ます大会」は、12月19日に開催され、約30人の交通遺児と、その保護者が集い、支援者や関係者などが交通遺児の健やかな成長を願い激励した。



小学校入学を祝われる交通遺児たち

b. 障がい者

地域社会での障がい者福祉の増進、理解および交流を深めることを目的に、肢体・聴覚・視覚・精神・知的などの障がい者団体が主催する講演会、シンポジウム、研修事業などに対して中日新聞紙面で紹介するなどの支援や助成金などを贈呈した。

c. その他

・第13回福祉の星フォーラム（12月12日・愛知県社会福祉会館第1研修室）

「福祉」のイメージアップと福祉人材の確保を目指し、講演会と現場で働く職員らによるシンポジウムを開催した。今年度は「福祉の仕事は最幸な仕事、いつまでも誇りをもって働き続けるために」をテーマに合同会社オレンジシップ代表皆本昌尚氏が講演。また日本福祉大学中央福祉専門学校専任教



会場の様子

員・渡辺哲雄さんをコーディネーターに迎え「福祉のしごと」～福祉ってブラックorホワイト？ 現場の声を聞いてみよう～をテーマにディスカッションを行った。会場参加とオンライン参加を併せ100人程の参加があった。

共催：愛知県社会福祉協議会、NHK厚生文化事業団

(2) 社会福祉向上を目的とする事業の実施、支援事業

a. 障がい者

・あいちアール・ブリュット展(9月11日～3月15日・市民ギャラリー矢田ほか)

愛知県内の障がい者の芸術・文化活動を通じて、障がい者の社会参加や、地域住民の障がいに対する理解を深め、障がいの有無をこえた交流が広がることを目指し、障がいのある人からの公募作品約650点、過去の入選作品、企業のノベルティに採用された障がい者の作品等を展示。また芸術系大学の教員が障がい者施設を訪問し行うアート出前講座などの活動を行った。

共催：愛知県、名古屋市文化振興事業団

b. その他

・年末助け合い運動

(11月22日～12月28日・中日新聞支社、総・支局、通信部・局)

年末の約1ヶ月をキャンペーン期間とし、本部には、305件、23,463,363円が寄せられた。生活保護家庭の児童にお年玉を贈呈するほか、福祉事業に助成した。

・助成を希望する公益事業に対する支援

▽第42回生活保護家庭の小中学生に「お年玉」を贈呈

12月下旬に愛知、岐阜、三重の各県と名古屋市に在住する生活保護家庭の小・中学生合わせて4,710人に、各県市の福祉事務所を通じて「お年玉」(小学生1,500円、中学生2,500円)を贈呈した。(昭和54年から継続)

	小学生		中学生		合計	
	人数(人)	金額(円)	人数(人)	金額(円)	人数(人)	金額(円)
愛知県	812	1,218,000	542	1,355,000	1,354	2,573,000
岐阜県	277	340,500	144	360,000	371	700,500
三重県	510	765,000	327	817,500	837	1,582,500
名古屋市	1,292	1,938,000	856	2,140,000	2,148	4,078,000
合計	2,841	4,261,500	1,869	4,672,500	4,710	8,934,000

▽第65回東海地区特別支援教育振興資金贈呈

心身障害児や高機能自閉症児、学習障がい児らの教育研究、実践啓発活動を行っている愛知、岐阜、三重、静岡の各県と名古屋市の5つの特別支援教育研究団体に研究助成金として1団体20万円を贈呈したが贈呈式は中止とした。

▽第47回難病者激励金贈呈

成田山名古屋別院大聖寺(犬山市)と同信徒団体「索(なわ)の会」から寄託された激励金(1,900,000円)を愛知、岐阜、三重の各難病者団体に贈呈した。

県	団体名	県	団体名
愛知	愛知県難病団体連合会	岐阜	岐阜県難病団体連絡協議会
	口唇口蓋裂を考える会		岐阜県パーキンソン病友の会
	東海脊髄小脳変性症友の会		岐阜県稀少難病友の会(くぬぎの会)
	繊維筋痛症患者家族会		ぎふ低肺機能者グループ
	CMT友の会 (シャルコマリートゥース病)		岐阜県潰瘍性大腸炎・クローン病患者会 (岐阜ちょう会)
三重	三重難病連	/	
	SCD・MSA三重の会		
	つぼみの会三重		
	日本てんかん協会(波の会) 三重県支部		
	稀少難病の会 みえ		

(3) 災害援護に関する事業

・東日本復興支援事業

東日本大震災からの復興を目指す団体や被災者支援団体などへの配分事業については、以下の12団体に贈呈した。また、当事業の配分委員らを宮城、岩手、福島各県に派遣し、配分希望団体の要望の聞き取りや被災地のニーズ調査を実施した。

宮城県	東北圏地域づくりコンソーシアム
	仙台グリーンケア研究会
	あじ島冒険楽校
	石巻復興きずな新聞舎
	けせんぬま森野おさんぽ会
	3.11みらいサポート
	フリースペース道
岩手県	つむぐ
	アットマークリアスNPOサポートセンター
	おおつち おばちゃんくらぶ
福島県	ちろる
	希来

事業一覧

(本部)

開催日	事業	主催・後援 (連携)	主催者	会場
4/17～ 5/30	令和3年度愛知県障害者スポーツ大会	後援	(社福)愛知県社会福祉協議会	星ヶ丘ボウル 他
4/17～ 2/19	名古屋手をつなぐ育成会 青年教室 ※中止	共催	名古屋手をつなぐ育成会	手をつなぐ育成会福祉会館 他
4/18	第8回チャリティーマラソン in 庄内緑地 介助犬の活動を応援しよう ※中止	後援	名古屋栄ライオンズクラブ	庄内緑地公園周回コース
4/21～ 11/18	第18回名古屋市障害者スポーツ大会	後援	名古屋市	小幡緑地公園 他
4/23～ 4/29	第21回陶展 第18回チャリティーバザー	後援	陶工房鳴海	陶工房鳴海
5月～3月	里親スキルアップ研修	後援	名古屋市里親会こどもピース	名古屋市児童福祉センター 他
5/9	第70回 児童園遊会	共催	名古屋市子ども青年局子育て支援部子ども福祉課	東山動植物園
5/14～ 3/11	令和3年度 児童福祉施設 事例検討自主研究会	後援	児童福祉施設 事例検討自主研究会	オンライン
5/15～16	第18回日本デフ陸上競技選手権大会兼第24回夏季デフリンピック競技大会日本代表選考競技会	後援	日本デフ陸上競技協会	知多運動公園 物産フードサイエンス1969知多スタジアム
5/20～22	第24回国際福祉健康産業展～ウェルフェア2021～※中止	後援	名古屋国際見本市委員会	ポートメッセなごや
6/1～1/18	令和3年度面接相談事業	後援	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団	愛知県教育会館 他
6/6	第57回名肢体登山大会 ※中止	後援	名古屋市肢体障害者福祉連合会	白樺湖畔・池之平ホテル
6/12～ 3/11	愛知県精神保健福祉の増進に関するネットワークづくり実施事業	後援	特定非営利活動法人 愛知県精神障害者家族会連合会	県白壁庁舎5階会議室 他
6/13～ 12/12	三重吃音臨床研修会	後援	三重言友会	四日市市文化会館 第三ホール
6/13～2/6	福祉に関するレクリエーション講習会・研修会・セミナー ※第2回講習会は中止	共催	愛知県レクリエーション協会	愛知県教育会館 他
6月	特別支援教育振興資金贈呈	主催	中日新聞社会事業団本部	贈呈式は中止
8/8～ 11/28	シャララ豊田ソング大発表会 シャララ岐阜ソング大発表会	後援	一般社団法人 社会福祉音楽推進会	豊田市鞍ヶ池公園、岐阜市民会館
8/18	令和3年度 愛知県児童福祉施設入所児童卓球大会	共催	愛知県児童福祉施設長会	日進市スポーツセンター
8/21～22	令和3年度 第1回 愛知県社会的養護自立支援事業「料理教室」	後援	愛知県中央児童・障害者相談センター	社会的養護出身の退所者のアパート、里親宅、自立援助ホーム
8/21～29	自由から世界が始まるアート2021 愛知展	共催	NPO法人 愛知アート・コレティブ	古川美術館
8/25～9/5	自由から世界が始まるアート2021 三重展	共催	特定非営利活動法人 希望の園	三重県立美術館 県民ギャラリー
8/29	令和3年度愛盲連文芸大会	後援	(社福)愛知県盲人福祉連合会	明生会館
9/9	GGSC スマイルアクション in NAGOYA	後援	特定非営利活動法人 ぶくぶくばーん	中部電力未来タワー
9/10～ 10/8	令和3年度 青少年の自立支援事業「トライアルキャンプ2021」	後援	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団	愛知県青年の家
9/10～ 12/10	第69回 手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	愛知県肢体不自由児協会	愛知県内
9/11～12	第54回愛知県身体障害者作品展 ※中止	後援	一般社団法人 愛知県身体障害者福祉団体連合会	豊川市桜ヶ丘ミュージアム
9/7～11/9	あいちアール・ブリュット展	共催	愛知県(福祉局福祉部障害福祉課)	名古屋市民ギャラリー矢田 他
9/18～20	第3回名古屋コインショー	後援	日本貨幣商協同組合	ウインクあいち 6階展示場
9/19～ 12/5	世界を感動させた スーパーミラクルイリュージョン ☆木下大サーカス豊川公演	後援	中日新聞社販売局 事業開発部	名鉄八幡駅前 特設会場

9/20	NPO法人愛知県難病団体連合会第48回大会	後援	NPO法人愛知県難病団体連合会	オンライン
9/25	第5回 パールオープン交流卓球大会 ※中止	後援	西尾パール卓球クラブ	西尾市中央体育館 アリーナ
9/25～ 3/11	名古屋少年友の会更生保護行事 ※一部中止事業あり	後援	名古屋少年友の会	愛知少年院・瀬戸少年院・豊ヶ岡学園・立正園等
9/26	最も自由な人たちVol.8 ～表現に感謝する日～	後援	特定非営利活動法人希望の園	Live&Loune Vio
10/1～ 3/31	東海特別支援教育カンファレンス2021	後援	東海特別支援教育カンファレンス実行委員会	オンライン
10/8～12	第73回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール	後援	社会福祉法人愛知県共同募金会	NHK名古屋放送センタービル 1階プラザウエーブ21
10/10	第47回 名視協文化祭	後援	名古屋市視覚障害者協会	名身連福祉センター 4階ホール
10/11～13	2021年度 世界精神保健デー普及啓発事業 「アルテ・エ・サルテ公演」	後援	特定非営利活動法人 東京ソテリア	クリエート浜松、名古屋市公会堂
10/15～ 3/31	第35回ふれあいフォトコンクール	後援	社会福祉法人 愛知県社会福祉協議会	愛知県社会福祉協議会
10/26	令和3年度三重県母子寡婦福祉大会	後援	(一財)三重県母子寡婦福祉連合会	三重県母子寡婦福祉連合会 会議室
10/30	第30回AICHI高校生交流会	後援	第30回AICHI高校生交流会実行委員会	東栄町交流促進センター 「千代姫荘」
10/31	第31回 名古屋市精神障害者家族交流事業 「晴れ ときどき 虹」	後援	特定非営利活動法人 名古屋市精神障害者家族会連合会	鯉城ホール
10/31	第26回長良川ふれあいマラソン大会 ※中止	後援	長良川ふれあいマラソン大会実行委員会	木曾三川公園特設会場
10月	成田山難病者激励金贈呈	主催	中日新聞社会事業団本部	贈呈式は中止
11/1～ 1/31	第43回 音楽の集い「碧南大会」	共催	愛知県児童福祉施設長会	DVD発表
11/3	令和3年度 愛知県児童福祉施設入所児童ソフト ボール大会	共催	愛知県児童福祉施設長会	幸田町とほね運動場
11/7～8	夏だ！、海だ！、篠島だ！家庭養護の仲間たちで作 る離島自然体験活動	後援	愛知県ファミリーホーム協議会	篠島 浜辺の宿 大舟
11/13	愛知県子ども会連絡協議会創立60周年記念 「第59回愛知県子ども会大会」 ※中止	後援	愛知県子ども会連絡協議会	名古屋市公会堂 大ホール
11/14	令和3年度愛知県母子寡婦福祉大会	後援	社会福祉法人 愛知県母子寡婦福祉連合会	ウィルあいち ウィルホール
11/14～ 2/13	三重県アールブリュット&ミュージックブリュット ～自由から世界が始まるART2021～	後援	特定非営利活動法人希望の園	まつさかチャレンジプレイ ス希望の園
11/17	第77回ボランティアスクール	後援	(社福)あさみどりの会	オンライン
11/19	第14回健康づくりウォーキング大会	後援	公益社団法人 名古屋市老人クラブ連 合会	東山公園一万歩コース
11/19～23	せとアール・ブリュット芸術文化祭2021	後援	スマイルプロジェクト	瀬戸蔵 市民ギャラリー
11/19～23	tomoniアートのフェスティバル いろんなみんなの 展覧会 芽が、でる	協力	(公財)岐阜教育文化財団	ぎふ清流文化プラザ
11/21	第18回 全国身体障害者グラウンド・ゴルフ岐阜大会 ※中止	後援	(一財)岐阜県障害者スポーツ協会	岐阜メモリアルセンター
11/21	第66回名古屋市身体障害者福祉大会	後援	(福)名古屋市身体障害者福祉連合会	中区障害者基幹相談支援セン ター
11/22～28	令和3年度 作品展「てをつなぐ」	後援	愛知県知的障害者育成会	豊橋市こども未来館ここにこ
11/22～ 12/28	年末助け合い運動	主催	中日新聞社会事業団	中日新聞名古屋本社 他
11/24～28	第13回 ふれあいアート展	後援	(一社)愛知県知的障害児者生活サポート 協会	名古屋電気文化会館 東ギャラリー
11/28	第18回なごや手話フェスティバル	後援	名古屋市聴言障害者協会	名古屋市北文化小劇場
11/29	令和3年度岐阜県母子寡婦福祉研修大会	後援	(一財)岐阜県母子寡婦福祉連合会	岐阜市民会館

12/4	第39回 愛知県心身障害児(者)福祉大会	後援	愛知県心身障害児(者)福祉団体連絡協議会	愛知県社会福祉会館5F 第一研修室
12/4~12	令和3年度小牧市障がい者作品展 こまきアール・ブリュット展	後援	小牧市	小牧市まなび創造館 市民ギャラリー
12/5	第60回愛知県身体障害者福祉大会	後援	(一社)愛知県身体障害者福祉団体連合会	清須市 春日公民館
12/9	第7回 スマイルピースコンサート	後援	スマイルピースコンサート実行委員会	オンライン
12/10	令和3年度地域共生社会推進セミナー	後援	社会福祉法人 愛知県社会福祉協議会	アイリス愛知
12/10~12	尾西作家協会チャリティー展	後援	尾西作家協会	一宮市三岸節子記念美術館
12/12	令和3年度福祉の星フォーラム	後援	社会福祉法人 愛知県社会福祉協議会	愛知県社会福祉協議会 会議室
12/19	第54回 交通遺児を励ます大会	後援	公益財団法人 東海交通遺児を励ます会	サイプレスガーデンホテル
12/19	地球組コンサート2021 “カッター 後ろ姿”	後援	少年少女合唱団 地球組	日本特殊陶業市民会館 ビレッジホール
12/24	第13回 名古屋市児童養護施設フットサル大会	後援	名古屋市社会的養育施設協議会	武田テバオーシャンアリーナ
12/25	日本特殊陶業株式会社がお贈りする第9回ファミリーミュージカル「桃太郎」	後援	株式会社 劇団飛行船	日本特殊陶業市民会館
12/25	ISOGAI花火劇場 in 名古屋港 ～次世代を担う子供たちに美しい花火を～	後援	一般社団法人 ISOGAI花火劇場	名古屋港ガーデンふ頭
12/26	2021中日青葉学園招待スケート教室	主催	中日新聞社会事業団本部	名古屋スポーツセンター
12/26	令和3年度 第12回 愛知県児童福祉施設フットサル大会	共催	愛知県児童福祉施設長会	武田テバオーシャンアリーナ
1/10~22	高次脳機能障害リハビリテーション講習会(Web講習会)	後援	高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会	オンライン
1/7~9	第23回日本ボッチャ選手権大会	後援	(一社)日本ボッチャ協会	スカイホール豊田
1/18~23	第59回 特別支援教育展「きらめき展」	共催	名古屋市特別支援教育研究協議会	名古屋市博物館 3階ギャラリー
1/20	共同募金運動75年記念・第69回愛知県社会福祉大会	後援	(社福)愛知県社会福祉協議会	ドルフィンズアリーナ
1/22~24	第45回世界の貨幣まつり	後援	日本貨幣協同組合	ウインクあいち 8階展示場
1/29	令和3年度 第2回 愛知県社会的養育自立支援事業「料理教室」 ※中止	後援	愛知県中央児童・障害者相談センター	ウィルあいち
2/1~28	第43回 東海北陸地区特別支援教育研究大会三重大会	後援	三重県特別支援教育研究会	誌上開催
2/6~13	令和3年度 第36回愛知県児童福祉施設親善マラソン大会 ※中止	共催	愛知県児童福祉施設長会	新城総合運動公園陸上競技場 及び周遊道路
2/8~13	第56回名古屋市障害者作品展示会	後援	(福)名古屋市身体障害者福祉連合会	名古屋市博物館 3階ギャラリー
2/8~13	ぼくらのアート展	後援	愛知県知的障害者福祉協会	豊川市桜ヶ丘ミュージアム
2/12	NHKハートフォーラム 名古屋市発達障害者支援センターりんくす名古屋講演会「実は身近な発達障害」	後援	名古屋市発達障害者支援センターりんくす名古屋	オンライン
2/20	RDD(Rare Disease Day) 2022 in あいち ※金山駅での啓発活動は中止	後援	NPO法人 愛知県難病団体連合会	YouTube
2/26	第24回 あした天気にな～れ	後援	一般社団法人 愛知県精神保健福祉士協会	オンライン
3/6	第40回耳の日記念聴覚障害者と県民のつどい ※中止	後援	(一社)愛知県聴覚障害者協会	瀬戸市文化センター
3/12~13	SAAスノーフェスティバル2022	後援	公益社団法人愛知県スキー連盟	御嶽スキー場
3/20	第51回 中学を卒業する交通遺児を励ます集い ※中止	後援	公益財団法人 交通遺児を励ます会	サイプレスガーデンホテル
3/21	第18回日本ブラインドテニス中部日本大会 ※中止	後援	日本ブラインドテニス連盟中部地域協会	名東スポーツセンター

3/21	里親家庭交流会 オルゴールを作ろう！	後援	名古屋市里親会こどもピース	愛知産業文化公園デンパーク
3/27	第28回全日本選抜フロアバレーボール愛知大会 ANGEL CUP2022	後援	愛知県フロアバレーボール協会	ドルフィンズアリーナ
3/27	陶芸教室／卒業卒園お祝い品贈呈式	後援	愛知県ファミリーホーム協議会	陶工房鳴海
3月	第10回あ・い・ち・ふ・く・しシンポジウム	後援	愛知県社会福祉協議会	オンライン
3月	第6回 東日本復興支援事業	主催	中日新聞社会事業団本部	中日新聞名古屋本社 東北3 県(宮城・岩手・福島)



北陸支部

本部や中日新聞北陸本社、富山主管支局と緊密な連携をとりながら各県内の関係機関、団体などの協力を得て令和3年度の事業を推進した。

◇社会福祉事業

(1) 社会福祉事業に関する助成を行う事業

・大井中日就学（職）支援（3月1日～31日・石川県内児童養護施設）

七尾市の中高生の就学を支援してきた「大井中日奨学福祉財団」の解散に伴い、平成24年3月に引き継いだ残余財産を、趣旨及び継続を考慮した「大井中日就学・就職支援金」として今年度も実施した。

県内にある児童養護施設8施設で暮らす中学校の卒業生に贈呈。今春高校に進学、就職する子どもたち26人に新生活の準備に役立ててもらおう。

(2) 児童養護施設等支援事業

・児童養護施設入所児童を北陸中日新聞主催「ミニチュアドールハウス展」に招待

年1回、北陸中日新聞主催事業に石川県内の児童養護施設に入所している子ども達を招待。今年度は石川県内の8施設に招待案内を出したところ、6施設から申し込みがあり、計129名を招待した。

(3) 助成を希望する障がい者関連施設に対する支援

・年末助け合い運動（11月22日～12月28日・石川県内）

中日新聞北陸本社と連携をとり、広く募金活動を展開。支部では、26件、543,774円の募金が集まり、石川・富山県内の障がい者就労施設6施設へ届けた。

◇公益事業

(1) 研修会・講演会・講座の開催、支援事業

・あすなる親の会（ひきこもりを考える会）例会（月1回・石川県内各所）

ひきこもりの子どもを持つ親たちが、月1回石川県内の会場にて意見交換会や、ひきこもりへの理解を深めるため講師を招いて講演会を開いた。北陸支部より8万円を助成した。

(2) 社会福祉、保健医療の向上を目的とする事業の実施及び支援

a. 障がい者

- ・「金沢手をつなぐ親の会水泳大会」を支援 ※中止

障がいのある子どもたちの保護者らで運営している金沢手をつなぐ親の会が開催している大会。日常の体育訓練を通して、知的障がい児の身体的、心理的発達、社会的適合の促進向上を目指した水泳大会の参加者に、例年であれば参加記念品を贈っているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い大会中止となったため、支援することができなかった。

b. その他

- ・2021年度 中日ボランティア賞

(表彰式：12月11日・ANAクラウンプラザホテル金沢)

石川、富山県で地道な社会活動や、子どもたちの隠れた善行、他の模範となるボランティア活動を続けている個人、グループや団体を顕彰した。

従来の「中日ボランティア顕彰」(成人対象)と「中日あおば賞」(青少年対象)を統合し、今回で14回目。各県の福祉・教育関係機関、社会福祉協議会、公民館や図書館、病院などから推薦があり、社内外の選考会で15件(石川9件、富山6件)が選ばれ、受賞者に賞額、記念品を贈った。

後援は石川県、富山県、各県教育委員会、各県社会福祉協議会、金沢市教育委員会。

なお、今年度をもって中日ボランティア賞の顕彰事業の開催終了を決定した。来年度以降は助成事業を拡大する方針。



受賞者の皆さま

- ・乳児院に図書カード贈呈 (7月1日～31日・石川県内)

石川県内の乳児院2カ所に、1施設あたり20,000円の図書カードを贈呈。

(3) 災害援護に関する事業

今年度はなし。

事業一覧

(北陸支部)

開催日	事業	主催・後援 (連携)	主催者	会場
令和3年 7/1～31	乳児院に図書カードを贈呈	主催	中日新聞社会事業団北陸支部	石川県内の乳児院
7/29～ 8/22	児童養護施設入所児童を北陸中日新聞主催展覧会 「ミニチュアドールハウス展」に招待	主催	中日新聞社会事業団北陸支部	
	第41回金沢手をつなぐ親の会水泳大会 ※中止	後援	金沢手をつなぐ親の会	
11/22～ 12/28	年末助け合い運動	主催	中日新聞社会事業団北陸支部	石川・富山県の障がい者就労 施設(贈呈は2月)
12/11	2021年度中日ボランティア賞 表彰式	主催	中日新聞社会事業団北陸支部ほか	ANAクラウンプラザホテル金沢
令和4年 3/1～31	大井中日就学(職)支援金贈呈	主催	中日新聞社会事業団北陸支部	石川県内の児童養護施設
毎月	あすなる親の会(ひきこもりを考える会)例会	共催	あすなる親の会	石川県内

中日新聞東海本社と緊密な連携を取り、恒例の主催事業は新型コロナウイルス感染予防対策を講じて実施し、また今年度も児童養護施設からの要望を踏まえた支援を行うなど社会福祉事業にも力を入れ、静岡県下での令和3年度の事業を実施しました。

◇社会福祉事業

(1) 児童養護施設等支援事業

- ・浜松市内児童福祉施設出身の大学生らへ年末生活支援一時金を贈呈

(12月10日・浜松市内児童養護施設)

生活が困窮しがちと言われる児童養護施設出身の大学生に対し、年末の生活支援にと浜松市内の児童養護施設3カ所の施設を通じて生活支援一時金3万円を9人に贈呈した。学費や生活費に使用するとの声が多く、余暇を楽しむ余裕がなさそうな実情がうかがえた。

- ・浜松市内児童福祉施設入所の小学校新入学児童へランドセル贈呈

(1月27日・児童養護施設清明寮・浜松市)

児童養護施設清明寮に入所している令和4年度小学校新入学児童1名にランドセルを贈呈した。贈呈式では施設長が代理で受け取り、本人から「しょうがっこうでじがじょうずになりたい」などと書かれた手紙が後日届き、新生活を楽しみにしている様子が伝わってきた。

- ・浜松市内児童福祉施設入所者の高校進学者へ電子辞書贈呈

(3月25日・浜松市内児童養護施設3カ所)

浜松市内児童養護施設3カ所に入所している令和4年度高等学校進学の子生徒5人に、高校進学祝いと激励の意を込めて、高等学校で使用頻度の高い電子辞書を贈った。



児童養護施設の高校進学者へ電子辞書の贈呈＝浜松市で

◇公益事業

(1) 研修会・講演会・講座の開催、支援事業

・第43回静岡県ボランティア研究集会

(4年2月13日・オンライン配信・CD配布など)

静岡県内でボランティア活動に関わる人が集い、情報交換や話し合いを通じた学習・ネットワークづくり強化を目的とした集会。新型コロナウイルス感染拡大により、オンラインと講演会の収録CD配布に切り替えて実施。会を後援し、運営援助金50,000円を贈った。

主催：特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会、公益財団法人静岡県労働者福祉基金協会

(2) 社会福祉向上を目的とする事業の実施、支援事業

a. 障がい者

・第22回東海地区盲学校フロアバレーボール大会

(7月10日・静岡県草薙総合運動場「このはなアリーナ」)

愛知・静岡・岐阜・三重各県の盲学校・視覚特別支援学校の生徒によるフロアバレーボール大会。技術や体力向上をめざし、また生徒同士の交流と親睦を図る目的で開催。大会を後援し、参加賞のタオルを贈る予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大で実施が危ぶまれ、参加賞提供を辞退されたため名義後援のみ(大会は実施された)。

主催：東海地区盲学校体育連盟

b. その他

・第38回中日ボランティア賞(贈呈式=10月14日・ホテルコンコルド浜松)

静岡県内で積極的なボランティア活動に取り組む団体を顕彰する主催事業。静岡県、同県社会福祉協議会、同県ボランティア協会、浜松市が後援し、浜松市を除く後援3団体より15件の推薦を受けた。

受賞5団体(静岡県西部4団体、中部1団体)を選考委員会で決定。10月14日、ホテルコンコルド浜松で贈呈式を行い、賞状と奨励金(1団体150,000円)を贈った。



第38回中日ボランティア賞受賞団体代表者ら=浜松市で

・年末助け合い運動（11月24日～12月28日・中日新聞東海本社管内）

中日新聞東海本社と連携をとり、広く募金活動を展開した。寄付金は57件、総額で2,701,561円となった。

・第40回ふるさと知名人チャリティー色紙展

（11月20日、21日・遠鉄百貨店イ・コ・イスクエア6階
ギャラリー・ロゼ・浜松市）

静岡県にゆかりのある知名人（画家・書道家・版画家・漫画家など）から、色紙作品の寄贈を受け、展示。来場者が1枚4,000円で購入（一部入札あり）、その収益金を寄付金とする主催事業。



市民らでにぎわう第40回ふるさと知名人チャリティー色紙展＝浜松市で

中日新聞東海本社と連携をとり、浜松市の遠鉄百貨店の協力を得て開催。経費を除いた収益金(1,400,000円)の半額を年末助け合い運動資金に、半額を静岡県社会福祉協議会に贈った。

・生活保護家庭の中学生に図書カード贈呈（12月14日・静岡県西部地区）

静岡県西部地区在住で生活保護家庭の中学生182人（浜松市145人、湖西市3人、磐田市12人、袋井市14人、掛川市7人、御前崎市1人）に、激励の意を込め図書カード1人5,000円分を贈った。

お礼状には、高校受験やテストに備えて参考書を買ったと書いている生徒が多く、図書カードを有益に使っている様子がうかがえた。

・生活保護家庭の小学校新入学児童に図書カード贈呈

（2月17日・静岡県西部地区）

静岡県西部地区在住で生活保護家庭の新年度小学校へ入学する児童43人（浜松市30人、磐田市3人、袋井市9人、湖西市1人）に図書カード1人3,000円分を贈った。保護者からのお礼状には絵本や図鑑を購入したとの声や、覚えてたのひらがなでありがとうと書かれた新入学児童直筆のものもあった。

・浜松市内ひとり親世帯の小・中・高生へ学業奨励（新聞購読）事業

（8月1日～31日・浜松市内）

浜松市在住のひとり親世帯の小・中・高校生に対し、長期休暇中の時間を有効に使って新聞に親しみ、時事問題への興味や読解力向上に役立ててもらうことを目的に、中日こどもウイークリーや中日新聞朝刊を届けた。また希望者には中日春秋書き写しノートも贈った。（中日こどもウイークリー6人、中日新聞朝刊7人、ノート2冊）

・社会福祉事業資金造成 第38回中日杯争奪チャリティーゴルフ大会

（3月16日・豊岡国際カントリークラブ・磐田市）

新型コロナ感染予防策を講じた上で豊岡国際カントリークラブで開催し、上位入賞者にトロフィーを贈呈。チャリティー基金として参加費の一部など110,000円の社会福祉事業資金が集まった。

・第34、35回スズキビジネスチャリティーゴルフ大会

（7月8日、12月8日・いなさゴルフ倶楽部浜松コース・浜松市）

地元企業が主催するチャリティーゴルフ大会。困窮している浜松市のペルー人学校を支援する目的で寄付を募る目的で開催しており、本大会を後援した。

主催：株式会社スズキビジネスチャリティーゴルフ大会実行委員会

・静岡県ボランティア協会年次レポート発行への助成（5月・静岡県）

昭和52年に民間のボランティア活動推進機関として設立された静岡県ボランティア協会が平成19年4月に30周年を迎えた。これを記念し、同協会ではその後毎年年次レポートを発行しており、今年も助成金として50,000円を贈った。

主催：特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会

事業一覧

(東海支部)

開催日	事業	主催・後援 (連携)	主催者	会場
5月	静岡県ボランティア協会 年次レポート発行への助成	後援	特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会	静岡県
7/8	第34回スズキビジネスチャリティゴルフ大会	後援	スズキビジネスチャリティ ゴルフ大会実行委員会	いなさゴルフ倶楽部 浜松コース(浜松市)
7/10	第22回東海地区盲学校 フロアバレーボール大会	後援	東海地区盲学校体育連盟	静岡県営草薙運動場 「このはなアリーナ」
8/1～8/31	浜松市内ひとり親世帯小・中・高生へ 学業奨励(新聞購読)事業	主催	中日新聞社会事業団東海支部	浜松市内
10/14	第38回中日ボランティア賞贈呈式	主催	中日新聞社会事業団東海支部	ホテルコンコルド浜松 (浜松市)
11/20～21	第40回ふるさと知名人チャリティー色紙展	主催	中日新聞東海本社 中日新聞社会事業団東海支部	遠鉄百貨店イ・コイ スクエア6階 ギャラリー・ロゼ(浜松市)
11/24～ 12/28	年末助け合い運動	主催	中日新聞社会事業団東海支部	中日新聞東海本社ほか 静岡県内
12/8	第35回スズキビジネスチャリティゴルフ大会	後援	スズキビジネスチャリティ ゴルフ大会実行委員会	いなさゴルフ倶楽部 浜松コース(浜松市)
12/10	児童養護施設出身大学生らへ 年末生活支援一時金贈呈	主催	中日新聞社会事業団東海支部	浜松市内児童養護施設
12/14	静岡県西部地区生活保護家庭の中学生に 図書カード贈呈	主催	中日新聞社会事業団東海支部	静岡県西部地区
1/27	児童養護施設の小学校新入学児童へ ランドセル贈呈	主催	中日新聞社会事業団東海支部	浜松市内児童養護施設
2/13	第43回静岡県ボランティア研究集会	後援	特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会ほか	浜松市福祉交流センター
2/17	静岡県西部地区生活保護家庭 小学校新入学児童に図書カード贈呈	主催	中日新聞社会事業団東海支部	静岡県西部地区
3/16	社会福祉事業資金造成 第38回中日杯争奪チャリティーゴルフ大会	主催	中日新聞東海本社 中日新聞社会事業団東海支部	豊岡国際ントリークラブ (磐田市)
3/25	児童養護施設入所の高校進学者へ 電子辞書贈呈	主催	中日新聞社会事業団東海支部	浜松市内児童養護施設

東京支部

本部および中日新聞東京本社（東京新聞）と緊密な連携をとりながら、東京都を中心とした関東1都6県で、発行銘柄にあわせて『東京新聞社会事業団』名で令和3年度の事業を実施した。

◇社会福祉事業

年末助け合い運動で寄せられた寄付の一部を特別養護老人ホーム、母子生活支援施設などへ助成した。

◇公益事業

(1) 社会福祉向上を目的とする事業の実施、支援事業

a. 障がい者支援事業

- ・第25回 日本ID（知的障がい者）バレーボール選手権大会

（8月・千葉県浦安市運動公園総合体育館）※中止

例年、知的障がい者のバレーボール全国大会を後援し、参加チームから1名選ばれる「ベストプレイヤー賞」受賞者に盾を贈呈しているが、コロナ禍により中止となった。

- ・2021グリーンリボン ランニング フェスティバル

（11月6日・駒沢オリンピック公園および陸上競技場）※中止

東京新聞などが主催し、健常者と視覚などの障がい者、臓器移植者が一緒に走る事を目的とした大会を後援する予定だったが、コロナ禍で中止となった。

- ・第19回 本間一夫記念 日本点字図書館チャリティコンサート

「澤 亜樹 ヴァイオリン リサイタル」（1月16日・東京文化会館小ホール）

社会福祉法人 日本点字図書館が活動資金の一助とするために毎年開催しているチャリティコンサートを後援した。

b. 高齢者支援事業

- ・「第48回国際福祉機器展」

（11月10日～12日・東京ビックサイトおよびWEB展示会）

例年、社会福祉法人 全国社会福祉協議会、一般財団法人 保健福祉広報協会と協力して、高齢者や障がい者らの自立や社会参加に役立つ福祉機器展（東京

ビッグサイト)に協賛している。本年度から、オンラインによるWEB展示会方式も併用するハイブリッド開催となった。

c. その他

・団体への助成

年末助け合い運動で寄せられた募金の一部を、社会福祉法人 日本点字図書館、一般財団法人あしなが育英会、公益財団法人 交通遺児育英会に助成した。

・清瀬市社会福祉協議会 歳末チャリティ カレンダー市

清瀬市社会福祉協議会の要請により、カレンダー、クリアファイル、メモ帳などを寄贈した。

(2) その他の事業

・年末助け合い運動

東京新聞と同支局などの協力を得て、年末助け合い運動を11月19日から12月28日まで行った。期間中に75件 1,194,327円が寄せられた。

事業一覧

(東京支部)

開催日	事業	主催・後援 (連携)	主催者	会場
8月	第25回全日本IDバレーボール選手権大会 ※中止	後援	日本IDバレーボール連盟	千葉県浦安市運動公園総合体育館
11/6	2021グリーンリボン ランニング フェスティバル ※中止	後援	中日新聞東京本社(東京新聞)ほか	駒沢オリンピック公園および陸上競技場
11/10～ 11/12	第48回 国際福祉機器展	協賛	(福)全国社会福祉協議会 (一財)保険福祉広報協会	東京ビッグサイトおよびWEB
11/19～ 12/28	年末助け合い運動	主催	中日新聞社会事業団 東京支部	東京新聞の発行エリア
1/16	第19回 本間一夫記念 日本点字図書館チャリティコンサート 「澤 亜樹 ヴァイオリン リサイタル」	後援	(福)日本点字図書館	東京文化会館小ホール

◁ 岐阜支部 ▷

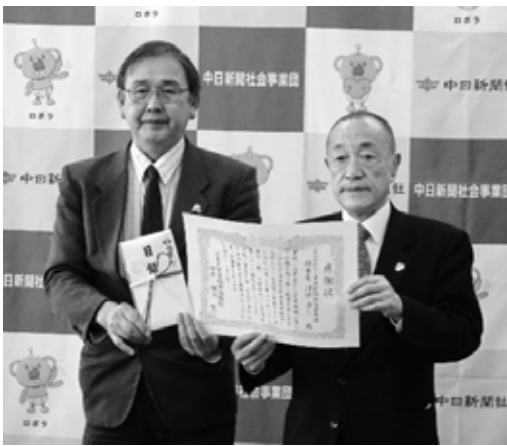
本年度も、昨年度に続きコロナ禍で多くの後援事業が中止となったが、主催・共催事業は感染予防対策を講じて実施するなど、本部や中日新聞岐阜支社と緊密に連携をとりながら、地域に密着した事業を実施した。

また、「中日新聞社会事業団岐阜支部だより」を中日新聞岐阜県版に毎週掲載し、共催・後援・支援事業の告知に努めた。

◇社会福祉事業

(1) 児童養護施設等支援事業

・第4回中日ロボラぎふ就学（職）支援金贈呈式



横川会長⑤に目録贈呈、河津理事長が感謝状受領

(2月2日贈呈式・中日新聞岐阜支社)

県内の児童養護施設に入所している高校3年生に対し、大学や専門学校への進学及び就職など新生活に向けての準備を支援するため、各対象児童の個人口座へそれぞれ3万円を銀行振込で支給した。

贈呈式では、岐阜県児童福祉協議会の横川会長が代表して目録を受け取った。

今年度(第4回)の対象者：31名

(2) 社会福祉法人の障害者芸術展

→コロナ禍で中止となった。

◇公益事業

(1) 保健医療相談支援事業

「中日新聞社会事業団岐阜支部だより」(岐阜県版に毎週掲載)を通じて告知し、募集の支援を行った。

〈主な相談内容〉

・薬物依存症医療電話相談(毎月第2水曜日)を共催

薬物依存症自立支援団体「岐阜ダルク」の協力で、同症の自立支援および啓発活動として薬物やアルコール依存症患者及び家族に対しての電話相談を行った。(年間10回) 共催：NPO法人 岐阜ダルク

・「心の病電話相談」（毎週火、木、金曜日）を後援

精神疾患に伴う悩みを抱えている人に電話相談窓口を開設し、精神疾患の方及びその家族の支援を行った。（年間143回実施）

※メールでの相談も行い、告知を「岐阜支部だより」に掲載した。

主催：NPO法人 岐阜県精神保健福祉会

・「認知症介護者のつどい」及びメール相談を後援

認知症の人と家族の会が主催し、認知症の介護経験を持つ相談員による介護相談を行った。

※コロナ禍で会場の人数制限など規模を縮小して開催し、補完としてメール相談を実施した。

※岐阜地区の会場として、岐阜中日ビル7階会議室を使用した。

主催：（公社）認知症の人と家族の会岐阜県支部

(2) 研修会・講演会・講座の開催支援

a. 研 修 会

・岐阜県難病団体連絡協議会が会員を対象に実施した「ピアサポート研修会」を後援（1月30日、岐阜大学サテライトキャンパス）

b. 講演会・講座

→コロナ禍ですべて中止した。

(3) 社会福祉向上目的とする事業の実施、支援事業

a. 障害者スポーツ支援事業

→コロナ禍ですべて中止となった。

b. 障害者支援事業

・第30回中部手話スピーチコンテストを共催



受賞者のみなさん

(11月20日、中部学院大学各務原キャンパス)

主催：中部学院大学、同短期大学部

昨年度は、コロナ禍で中止、2年ぶりの開催。

愛知県の桜花学園高校・県立杏和高校の部活動を中心に、社会人や中部学院大学の大学生が参加。観客が選ぶ会場特別賞として中日賞を贈呈した。

・「ふれあいアートステーションぎふ」(障害者の作品展)を後援



主催：(一社) 岐阜県身体障害者
福祉協会

会期：8月19日～30日、
12月1日～13日、
1月18日～31日の3回

会場：岐阜中日ビル2階アートカフェ中日茶房

「ふれあいアートステーション・ぎふ応募作品展」に参加の障害者の作品を、各回11作品程度展示し、その活動と作品を紹介した。

c. 子育て支援事業

・岐阜市の母子家庭 東京ディズニーリゾートバス旅行は、コロナ禍で2年連続延期した。

主催：岐阜市母子寡婦福祉連合会

d. その他

・社会福祉団体及び公益団体への活動助成金贈呈

岐阜県児童福祉協議会や刑務所篤志面接委員協議会など、岐阜県内の社会福祉団体及び公益団体の計12団体に活動助成金を贈呈した。

・年末助け合い運動(11月22日～12月28日・岐阜支社管内)

岐阜県内の福祉施設や福祉団体の支援のため、中日新聞岐阜支社と各支局・通信局部などの協力を得て、中日新聞紙面に寄託者を紹介し年末助け合い運動を展開した。

(4) 災害援護に関する新聞社への協力

・自然災害発生の援護活動

本年度は、幸いにも該当するような自然災害は無かった。

事業一覧

(岐阜支部)

開催日	事業	主催・後援 (連携)	主催者	会場
毎週 火木金	「心の病」電話相談(年間143回開催)	後援	岐阜県精神保健福祉連合会	岐阜県精神保健福祉連合会事務所(岐阜市)
年間	認知症介護者のつどい及びメール相談	後援	認知症のひとと家族の会岐阜県支部	岐阜中日ビル ほか(岐阜市)
毎月 第2水	薬物依存症医療電話相談(年間10回開催)	共催	岐阜ダルク	岐阜ダルク事務所(岐阜市)
8月	岐阜市母子家庭 東京ディズニーリゾートバス旅行 ※延期	後援	岐阜市母子寡婦福祉連合会	東京ディズニーリゾート(千葉県)
8/19~30	ふれあいアートステーションぎふ	後援	岐阜県身体障害者福祉協会	アートカフェ中日茶房(岐阜市)
9/25~26	CPサッカーフェスティバル2021 in ぎふ ※中止	後援	日本CPサッカー協会	長良川球技メドウ(岐阜市)
10/3	第41回岐阜県視覚障害者福祉協会文化祭 ※中止	後援	岐阜県視覚障害者福祉協会	ウエルフェア土岐(土岐市)
11/7~8	新光会創立70周年記念全国大会岐阜大会 ※中止	後援	中途失聴・難聴者団体「新光会」	ホテルパーク(岐阜市)
11/13	東海地区盲学校球技大会(ゴールボール)	後援	東海地区盲学校体育連盟	岐阜盲学校(岐阜市)
11/20	第30回中部手話スピーチコンテスト	共催	中部学院大学、岐阜県視覚障害者協会	中部学院大学(各務原市)
11/21	全国身体障害者グラウンドゴルフ大会 ※中止	後援	岐阜県障害者スポーツ協会	長良川競技場(岐阜市)
12/1~13	ふれあいアートステーションぎふ	後援	岐阜県身体障害者福祉協会	アートカフェ中日茶房(岐阜市)
11/21~ 12/28	年末助け合い運動	主催	中日新聞社会事業団岐阜支部	岐阜支社、支局、通信局部
1/18~31	ふれあいアートステーションぎふ	後援	岐阜県身体障害者福祉協会	アートカフェ中日茶房(岐阜市)
1/23	要約筆記かがり火講習会 ※中止	後援	ぎふ要約筆記かがり火	岐阜市民福祉活動センター(岐阜市)
1/30	岐阜難病連ピアサポート研修会	後援	岐阜県難病団体連絡協議会	岐阜大学サテライトキャンパス(岐阜市)
2/2	中日ロボラぎふ就学(職)支援金 贈呈式	主催	中日新聞社会事業団岐阜支部	中日新聞岐阜支社(岐阜市)

あおば館は、社会的養育推進計画に基づいて、小規模化、地域化、多機能化、高機能化を進めており、令和3年12月に子どもたちが生活する1軒家2棟と管理棟からなるサテライト「三つ葉」が完成。令和4年1月から女子6人が「さくらの家」で生活を始めた。定員は40人で、本体施設に5つあったホームのうち、幼児が生活する「さくら」は年度末で閉鎖。男女2ホームずつ4ホームは、小規模グループケア2ホーム、小舎2ホームで運営した。

里親の拡大を目指し、令和2年度に続き県の里親フォスタリング事業を受託。6月から、豊明市と春日井市を重点地域に、里親の啓発と一部の研修事業に取り組んだ。

あおば館の本体施設もケアニーズが高い児童が多くなることが想定され、児童心理治療施設わかば館と連携し、複合施設の強みを発揮できるよう努めている。あおば館の幼児がわかば館に措置変更され、わかば館から中学生2人があおば館に措置変更された。また、子どもたちが地域の人たちと交流する機会を増やし、学園が有する専門的なノウハウを生かして地域の子育て支援に貢献できる社会福祉施設を目指して活動を行った。

(0-1) 新型コロナウイルス対応、対策

令和3年度は、6月までアルファ株による第4波、6～9月はデルタ株による第5波、4年1月～3月までオミクロン株による第6波と新型コロナの感染拡大が相次ぎ、愛知県では緊急事態宣言が2回出された。特に、1月から広がった感染力が強いオミクロン株による第6波では、まん延防止等重点措置が出される中、子どもへの感染が広がり、学園でも合計で子ども16人、職員10人が陽性となり、クラスターとなってしまった。子どもたちは、居室内生活を余儀なくされ、職員は厳しい勤務配置となったが、両館で連携して窮地を乗り切った。

2月1日にあおば館の小中学生2人が体調不良を訴え、PCR検査の結果、陽性と判明。別棟の「退所支援施設のぞみ」に隔離して支援をした。子どもの対応をした職員1人も後日陽性となった。

3月9日には、わかば館の子どもが発熱し、PCR検査の結果、陽性と判明。小学生から高校生まで子ども14人が陽性となった。特に、女子「あさぎ」ホームでは、入所児童14人中11人が陽性となるクラスターとなった。このため、「あさぎ」ホームを陽性者の生活の場とし、陰性の女子は、あおば館の一時保護ホーム「あすなろ」で生活をした。高校生は、名古屋市内のホテル療養となった。男子の陽性者は3人だった。あおば館の職員がわかば館のホーム支援にあたるなど、

連携して対応した。

子どもの支援にあたった職員6人が陽性となった。子どもたちは、学園内でも、常時マスクをして生活。「あさぎ」ホームでは、感染防止対策として、子どもはリビングには出ずに各個室で生活し、食事は個室の前に置いて取り入れてもらった。職員は、マスクに加えて、防護服を着て対応。机をはじめ、トイレなど生活空間の消毒作業を徹底した。

また、家族からの感染で、3人の職員が陽性となった。

PCR検査は、通常検査から結果判明まで2、3日かかるが、かかりつけ医の福嶋ファミリー内科クリニックでは、独自に検査機器を導入。その日のうちに検査結果が出るため、迅速に対応ができたほか、休日でも緊急に対応していただき、この場を借りて感謝を申し上げたい。

陽性者が出ると、当初は保健所の聞き取り調査の電話が入り、濃厚接触者の対象や発症日、解除日の指示があったが、感染の拡大とともに保健所の業務が多忙となって電話の時期が遅くなり、濃厚感染者の対象は独自に判断して対応せざるをえなかった。また、国は濃厚接触者の自宅待機期間の短縮の方針を示したが、保健所などの行政機関からの具体的な指示がない中、判断に迷いながらの対応が続いた。

あさぎホームで感染者の隔離期間が終了した際には、清掃会社の中日サービスがボランティアでホーム内の清掃、消毒をしてくださった。

(0-2) コロナ禍の活動＝行事、施設長会活動、部活動等

学園行事や、県児童福祉施設長会主催の行事も中止となるものもあったが、参加人数を減らすなど工夫して活動、参加した。

▷卒園生ら学園関係者が集う「つつじの会」は延期した。

▷夏に県外などで1泊して行ってきた目的別活動は、行先を県内に限定して実施した。あおば館では、篠島などで1泊、わかば館は佐久島で1泊して海水浴などを楽しんだ。

▷「青葉まつり」は、外部の人を招かずに、園内児童と職員が楽しむ行事に簡素化し「青葉お楽しみ会」として実施した。

▷クリスマス会は12月23日に、多目的ホールで実施した。ただし、食事の席を移動せず、マスクをして舞台での演目を楽しんだ。

▷退園を祝う「巣立ちの会」は、中止し、卒園生にはDVDなどにお祝いメッセージを録画して4月のつつじの会で手渡すこととした。

対象者は、3月に高校を卒業して自立するあおば館2人、わかば館3人をはじめ、家庭復帰する小学生も含めて両館9人ずつの計18人

▷施設長会主催の行事では、夏季球技大会卓球大会は8月18日に日進市で開催。個人戦はなく団体戦のみだったが、中高生の部で青葉学園Aチームが優勝した。ソフトボール大会は、11月3日に幸田町で実施。あおば・わかば合同チームで参加した。フットサル大会は12月26日に名古屋市で実施。中高生男子の部で中日青葉学園チームが、敗者復活戦から勝ち残り、優勝した。親善マラソン大会は中止された。

▷「音楽の集い」は、一堂に会しての開催は中止されたが、各施設で演奏・披露をして録画したものを持ち寄ってDVDを作成、配布された。青葉学園では、和太鼓の演奏を収録した。

また、和太鼓同好会は、クリスマス会や寄付の贈呈式の際に演奏を披露した。器楽演奏部は、わかば館の子どもたちが、クリスマス会で披露した。お抹茶同好会は、3月24日に満開の桜の下で旅立ち茶会を行った。ペン習字も、感染状況をみて、定期的に活動した。

(0-3) コロナ禍の対応=ボランティア、学園見学、研修

▷社会福祉の援助者の後進育成、また地域に開かれた施設を目指し、ボランティア活動の受け入れに力を入れているが、感染時期は、外部の人がホームに入ることを制限。ほとんどのボランティア活動を遠慮していただいた。児童の理美容奉仕の「竹の子会」の活動は、緊急事態宣言中に中止したが、まん延防止期間中は、距離をとるなどの対応をして活動してもらった。

あおば館での学習は、学習ボランティアや公文の指導役のボランティアの受け入れを大幅に削減することとなった。わかば館では、大学進学希望の高校3年生に対し、塾の講師に学園内での個別指導を割安の授業料で実施してもらった。

▷学園の見学を目的とする団体、個人は緊急事態宣言が解除された時期に、寄贈で来園された方など、ホームのリビング入口などで時間を限って見学していただいた。

▷多くの研修が、ZOOMでの開催となり、オンラインで参加した。また、わかば館指導課長が全国児童心理治療施設研修委員、心理士が同中部ブロック職員研修運営委員を務め、オンラインでの運営にあたった。

▷実習生の受け入れは、児童が生活しているホーム内での実施はほとんどできず、スクーリング形式や講義形式で実施した。

	社会福祉士	保育士	心理士	介護等体験	看護師
あおば館	1	30	0	10	0
わかば館	4	17	38	11	67

(1) 安全安心・権利擁護

児童福祉施設は、児童が「安全で安心して暮らせる」場所であることが求められている。児童同士の「いじめ」「暴力」には適切に対応、被害が大きくなるように努めるため、「安全安心委員会」の名のもとに、関係職員が連携を取り、対応に当たっている。月1回の避難・消火指導を行い、児童全体会で安全マップをもとに学園敷地内の遊び方、自転車の正しい乗り方などを伝えている。

被措置児童虐待防止に向け、児童間の暴力、職員から児童への不適切な関わりがないように、最優先事項として取り組んでいる。

(2) 問題行動・事故など

児童相談センターと連携し支援を行った問題行動は、わかば館児童2人とあおば館児童1人による火遊び・無断外出1件のほか、わかば館児童による暴力行為が1件あった。

あおば館の高校生が自転車で下校中、車にはねられて1週間のけがをする交通事故など2件の事件・事故があった。

事案ごとに安心安全委員会で、背景の分析と再発防止策を検討、実施した。

また、入所児童の個人情報に掲載された書類を、職員が無許可で持ち出し、出先で置き忘れるという事案が起きた。幸い、書類は見つかり、情報の漏洩はなかったが、児童相談センターに報告。個人情報の保護対策として、個人情報保護規程を遵守する旨の誓約書を職員に提出してもらい、規程の内容や必要性をあらためて確認。個人情報の取り扱いに関する実務をまとめた手引きを作成した。青葉分校とは、個人情報管理に関する覚書を交わした。

(3) 苦情・意見

入所児童が気軽に意見を表明できるよう設置している苦情意見箱には、あおば館1件、わかば館3件の苦情、意見、悩み相談があった。職員の対応についての苦情に対しては、両者に話を聞いて対応した。小遣いを値上げしてほしいとの要望には、新年度から小遣いをあげることを決定し、全児童に伝達した。

また、法人が設置している苦情解決制度の利用を希望する保護者や入所児童はいなかった。

(4) 合同職員研修

新型コロナウイルスの感染対策について、毎月伝達した。ほかの研修は、下記の通り

7月	熱中症・食中毒対策
12月	ノロ・ロタ・インフルエンザウイルス感染動向について サテライト進捗状況について
3月	個人情報について

(5) 職員表彰

▽勤続表彰

あおば館 20年1人、5年3人

わかば館 35年1人、15年1人、5年2人

(6) 県指導監査

会計経理では、予算を超過して執行している科目があるため、補正や流用を適切に行うことを求められた。寄付金収益明細書の書類と計算書類の一部に一致していない部分があると指摘を受けた。非常災害対策計画等に関する規定の見直しの検討を求められた。それぞれ対応、改善をしている。

(7) 施設整備

学園近くの日進市岩崎町小林に、サテライト・分園「三つ葉」が完成し、12月24日に完成式、25日に地元の方々を対象にお披露目会を開いた。分園は、1422.41㎡（430坪）の敷地に、住居棟2棟と管理棟1棟が建てられた。

居住棟2棟は、一軒家で、女子の「さくらの家」と男子の「ポプラの家」からなり、「さくらの家」は、令和4年1月から女子6人が生活を始めた。「ポプラの家」は、同4月から男子6人が生活を始める。1階はリビング、対面式キッチン、風呂場、スタッフルームがあり、2階は子ども6人の個室と職員の宿直室を備える。

管理棟は、地域の方々との交流の拠点となることを目指す。里親を増やす活動をする「里親フォスタリングセンター」の事務局も入り、会議室では、研修会なども計画している。

(8) 調理・食育委員会

各館の代表者、調理代表者を交え食育委員会を2か月に一回実施。残食の量や児童からの意見など情報交換の場としている。各ホーム児童からの希望の献立を募集し、6回のリクエストメニューを実施した。児童の反応を各ホーム会議で集約し、調理へのフィードバックを通して児童の食事への関心が高まるようにしている。集団での食事メニュー（鍋、鉄板焼きなど）の提供に関して、どのように対応していくかを検討。時間をずらす、1ヵ所で調理をし、児童に配

布するなど工夫している。

(9) 大学等進学支援

法人本部の大学等進学支援として、新年度に大学、専門学校へ進学したあおば館2人、わかば館1人と、退園生のあおば館5人、わかば館1人の計9人に支援金(返済義務のない奨学金)を給付した。

(10) 外部との関わり

学園長が、日進市社会福祉協議会の理事、職員が日進市の要保護対策協議会の委員や名古屋市キャリア支援アドバイザーになるなど各関連機関・団体の委員や講師として参加し、地域の子育て支援、地域福祉支援の一翼を担っている。

(11) その他

くらちゃんハウスが青葉お楽しみ会に参加したり、くらちゃんハウスへ職員を派遣したりするなど、ファミリーホームとの連携を図った。

第三者評価の自己評価は年度内にできず、令和4年度に実施予定。

▶ 児童養護施設あおば館 ◀

あおば館は、定員40人。4月1日の在籍児童は、小学生から高校生までの男、女各2ホームと男女幼児の1ホームの計5ホームで、計38人。職員は、非常勤を含め31人、パート4人の体制で、子どもたちの支援にあたった。令和4年1月1日より分園三つ葉女子ホーム「さくらの家」始動した。

()内は定員

	男子	女子	男女幼児
3階	ひのき7人(8人)	もみじ10人(12人)	—
2階	けやき7人(7人)	しらかば5人(7人)	さくら6人(6人)
三つ葉		さくらの家5人(6人) 令和4年1月1日より	

・施設形態：小規模グループケア＝ひのき、しらかば、さくら さくらの家
小舎＝けやき 中舎＝もみじ

(1) 子どもの入退所実績、入学、卒業状況

	男子	女子	計
入所	4人	6人	10人
退所	2人	3人	5人

延べ入所者数は13,572人
一時保護児童数は5人、235日

		男子	女子	
令和3年4月入学	中学校	2人	2人	
	高校	2人	1人	
令和4年3月卒業	小学校	0人	3人	
	中学校	2人	2人	高校進学
	高校	0人	2人	大学進学

令和3年度においては2人が大学進学を果たし自立。

家庭復帰児童は5人。

里親家庭への措置変更は1人。

(2) 性教育委員会

性教育委員会は職務見直しにおいて令和3年6月に解散。両館の情報交換や情報発信は課長、部長が行うこととした。

(3) 心理対応

心理士2人(6月に1人が退職)が、カウンセリングやプレイセラピーなど個

別心理療法、コンサルテーション、生活場面でのアセスメントや面接を行った。うち1人の児童については、心理士、ケアワーカー、病院、児童相談所職員等でケースカンファレンスを開催し、セラピーを終えた。

(4) 個別対応と家庭支援

個別対応職員は、被虐待児童の特性に寄り添った支援を実施。うち課題を抱えた1人の児童支援では鑑別所の通所指導を取り入れ、該当児童の根深い問題について担当ホーム職員、学校と情報を共有し特別な支援を展開した。

家庭支援専門相談員は、家族再統合に向け、児童相談所、地域行政等と協働し子どもの面談や保護者の子育て相談・家庭訪問を実施。本年度3人が家庭復帰した。また日進市開催の要保護児童対策協議会にも参加。市の主管課との情報共有にも努めた。

昨年度からの懸案事項であった親子交流においては、新型コロナウイルス感染予防の観点から面会、外出、帰省の制限を引き続き実施。保護者がいても家族交流ができない児童も多々いたが、親子交流における誓約事項を定めた誓約書を用意し時宜に応じ親子交流ができる仕組みを作った。

(5) 退所者支援

コロナ禍において大学進学後も通学、アルバイトができず、新生活に不安を抱く卒業生の相談を受けたり、奨学金の申請手続きを手伝ったりした。大学卒業に際しての引っ越し作業や住居契約手続きの支援も実施した。退園後の男女5人を継続して支援。うち1人は進級をあきらめる等打ち開けた子もいたが、手厚いアフターケアで学校指定の実習も乗り切り進級を決めた。

また、退園後数年を経ても、対人関係の問題から生活が安定しない卒園生に対し、相談に応じたり、住居契約手続きを手伝ったり、再就職支援などにあたった。うち1人の退所者を期間限定で調理補助として雇用。時間が経つにつれ連絡が取りづらくなる卒園生の支援としては、新しい形態のアフターケアを展開した。

(6) 福祉事業ポイント

愛知県民間社会福祉施設運営費補助制度の福祉事業ポイント加算では▷社会福祉実習の受け入れ▷教員養成介護体験等の受け入れ▷福祉人材育成への取り組み▷福祉避難所▷一時保護の実施300日以上▷退所児童支援事業▷家庭的養護の推進の7項目6.5ポイントを申請した。

(7) 分園・三つ葉の開園（社会的養育推進計画）

施設の小規模化、地域化を求める推進計画の実現のため開設した分園・三つ葉では、令和4年1月から女子5人（3月に1人追加）が「さくらの家」で生活を始めた。児童の選定については児童、担当職員とで面談を重ね、ケースに応じた選定を行った。家庭復帰の可能性が低い児童には、実家機能を意識させることにも主眼を置いた。また、より家庭的な生活体験を幼児に保障するというコンセプトで、幼児も本園から分園への引っ越しも同時に行った。男児が生活する「ポプラの家」の4月からの稼働に向けて準備を進め、年度末には引っ越しを終えた。

(8) 里親支援

平成30年から里親支援専門相談員を配置し、専門性を生かして里親と児童との関係づくりを支援している。里親制度についての啓発や里親登録前研修、里親支援研修への参加、協力をした。月2回、児童相談所が主催する里親サロンに協力し、学園を会場に3回開催された。里親家庭に延べ149回訪問したほか電話相談を受けた。里親委託の推進の取り組みや、アフターケア、里親会の活動支援もした。レスパイトケアの調整も行った。いずれも、新型コロナ対策をとりながら、里親に寄り添う支援にあたった。

(9) コロナ禍の活動

▷学習

新型コロナウイルスの影響もあり、今年度公文学習の実施、学習ボランティアの受け入れについては大幅に減少。塾も制限されたこともあり、学習における取組については大幅削減を余儀なくされた。しかし中3児童の進学については全職員で共通認識を図り、課長、部長面接を取り入れ、進学の目的や施設からの高校進学におけるルールを確認。充実した高校生活を送れるように激励をした。

▷子ども会

地域との交流活動で、市場町側の子ども会に加入したが、ほとんどのイベントの開催が見送られた。

(10) 一時保護ユニット「あすなる」の活用

両館併設のメリットを生かし、わかば館不適応児童の一時保護を長期的に実施。園内にて社会的養育を完結し家庭復帰に結び付けることができた。

▷ 児童心理治療施設わかば館 ◁

わかば館は、男女2ホームで定員35人の大舎制をとる。4月1日の在籍児童は、小学生から高校生まで計32人。職員は非常勤を含め32人の体制で子ども達の支援にあたった。「生活の質の向上を図るなかで未来に希望の持てる日常を取り戻す」を目標に掲げて臨んだ。無断外出、器物破損、自傷行為、児童・職員への暴力など難しい対応もあったが、職員のチームワークで子どもを支えることができた。

もえぎ・男子	あさぎ・女子	合 計
16人(定員17人)	15人(定員18人)	31人(定員35人)

平成31(2019)年に大規模なリフォームを実施、プライバシーの保護と個別対応が強化されたこともあり、今年度は大きな性的なトラブルは起きなかった。

(1) 子どもの入退所実績、入学、卒業状況

	男子	女子	計
入所	5人	4人	9人
退所	7人	6人	13人

延べ入所者数は11,392日人数
一時保護児童数は男子1人・女子8人で、延べ350日人数日

		男子	女子	
令和3年4月入学	中学校	3人	0人	
	高 校	1人	2人	
令和4年3月卒業	小学校	1人	0人	
	中学校	3人	2人	高校・専修学校進学5
	高 校	1人	1人	就職1、大学進学1

小学校を卒業した1人はあおば館に措置変更。

中学校を卒業した5人のうち1人はわかば館で入所を継続。4人は家庭復帰して高校進学をした。

(2) 性教育委員会

月に1回、あおば館性教育委員との情報交換を行う。

生活の中での性教育の在り方を考え、日々の支援に生かした。また、学校との情報交換も行った

退園児童を対象に、個々に生活担当者と看護師で性教育を行った。

(3) 心理対応

不登校や情緒不安定な児童のほか、最近では発達障害児や重篤な虐待を受けて入所する子どもが増え、生活場面で特別な配慮が求められることが多くなっている。心理職が、わかば館1階の治療棟で1回45分の個別のセラピーを行った。子どもと心理士の関係性を基盤に日常生活の生きづらさに折り合いがつけられるよう心理士の知見を基にアプローチした。また、指導員、保育士と子どもの見立てについて協働し、生活全体が治療的環境になるように整えた。

また、非常勤の精神科医には子どもとの面談、カンファレンスへの出席、行事への参加など、多様な側面から子どもとの関わり持ってもらい、子どもの状態の見立てや療育方法についてのスーパーバイズを受けた。加えて、職員との面談を通して職員のメンタルヘルスについてもアドバイスを受けた。非常勤の小児科医には、コロナ対応でいろいろなアドバイスをいただいたり、PCR検査では休日や時間外でも実施してくれた。

(4) 家庭支援

子ども1人1人の特性に合った治療・支援が行えるように、子ども1人に対し生活担当、心理担当、家族支援担当の職員を配置し、三者が共同してケアプランを作成。よりきめ細かい支援が行えるようにしている。

本年度の退所先は、家庭復帰7人、あおば館への措置変更1人、里親への措置変更1人、自立1人、グループホームの入所1人であった。

(5) 児童支援

入所児童の多くが心療科に定期的に通院しており、医療機関との連携強化に努め、個々のケースに合わせてより専門的な視点で治療が行えるようにしている。

児童相談センターとも連携し、保護者への子育て支援プログラムの実施や、家庭復帰を目指して地元校や各関係機関や支援者との関係者会議等も積極的に行い、家庭復帰や児童養護施設等への措置変更役に役立てた。

里親に措置変更をしたケースでは、継続してレスパイトを行い、里親支援も行った。

日々の取り組みでは、男女それぞれのホームで毎日その日を振り返る「もえぎ会議」「ガールズミーティング」を継続して実施。子ども達の意見を言える場を設けている。

(6) 学習

高校受験については、個々の進路に応じた学習に取り組めるよう分校とも協力して個別対応を実施した。

(7) 福祉事業ポイント

愛知県民間社会福祉施設運営費補助制度の福祉ポイント加算では▷福祉人材育成▷教員養成介護体験▷福祉避難所▷社会福祉実習受け入れ▷一時保護委託の実施▷被虐待児の受け入れ▷退所支援事業▷保護者支援事業…の8項目で7.5ポイントを取得した。

(8) コロナ禍の活動

▷職員研修

外部研修に参加することができなかったが、オンラインでの研修も増え、年度後半ではオンラインでの研修に参加した。

また、指導課長が全国児童心理治療施設研修委員会、心理士1人が中部ブロック職員研修運営委員会・研修運営委員になっているが、本年度はオンラインでの活動を行った。

▷実習生

通常の実習ができたのはほんのわずかで、児童が生活しているホーム内への実習生の受け入れはできなかったことから、スクーリング形式や講義形式で実施。保育士実習33人、看護実習61人、教員免許特例介護等体験14人、心理士実習5人、社会福祉実習7人の実習を行った。

▷生活訓練

学校の休業期間が長く、外出制限があったことから、食育活動として、野菜作りやお菓子、料理作りなどを職員と共に楽しんだ。

中日青葉学園人員構成

▽職員構成・職員数＝令和4年3月1日現在

あおば館	人員	担当職務
館長（学園長）	1	運営管理
副館長（両館指導療育部長）	1	運営管理
指導課長	1	指導統括
指導係長	1	生活指導
主任指導員・保育士	2	生活指導
指導員・保育士	12	生活指導
主任心理士	1	心理治療（生活指導）
栄養士	1	栄養管理
給食係	2	給食実務
事務員	1	事務
嘱託医（非常勤）	1	健康診断
非常勤	3	生活指導補助、幼児教育、里親支援、一時保護支援
小計	27	
わかば館 （児童心理治療施設）	人員	担当職務
館長（指導療育部長兼務）	1	運営管理
医師（非常勤）	3	医療業務
嘱託医（非常勤）	1	健康診断
指導課長	1	指導統括
事務課長	1	事務統括
指導係長	1	生活指導（統括）
主任指導員・保育士	1	生活指導
指導員・保育士	12	生活指導
事務	1	経理事務
看護師	1	健康管理
主任心理士	2	心理治療（生活指導）
心理士	2	心理治療（生活指導）
非常勤心理士	2	心理治療（生活指導）
給食係	3	給食実務
非常勤看護師	2	健康管理
小計	34	
フォスタリング担当	1	里親啓発
小計	1	
合計	62	

▽児童数（令和4年3月1日）

施設別	性別	幼児	小学生	中学生	高校生	その他	計
あおば館	男子	3	5	5	5		18
	女子	2	10	7	2		21
わかば館	男子		7	7	3		17
	女子		4	8	3		15
計		5	26	27	13	0	71

中日青葉学園主な行事

開催日		事業名
4月	6日	北小学校, 高校入学式、ラーメン訪問
	7日	日進中学校入学式、
	8日	日進ベタニヤ幼稚園入園式
5月	2～6日	ゴールデンウィーク外出(モリコロパーク、わかば館＝豊橋・のんほいパークなど)
6月	3日	サテライト施設地鎮祭
7月	26、27日	あおば館さくらH モンキーパーク旅行
8月	2、3日	あおば館ひのきH、けやきH篠島旅行、わかば館佐久島旅行
	3日	あおば館しらかば知多半島旅行
	4、5日	あおば館もみじH旅行
	18日	施設長会 卓球大会
	28日	わかば祭り
9月	3日	施設長会卓球交流試合
10月	1、14日	UFJ 熱気球教室
	9日	愛知韓国青年商工会による焼肉訪問、マジックショーも
	30日	青葉お楽しみ会
11月	3日	施設長会 ソフトボール大会
	12日	エアウィーヴから、マットレスの寄贈
12月	24日	サテライト・分園「三つ葉」完成式
	26日	施設長会 フットサル大会、スケート招待
2月	1日	県立高校卒業式
	3日	日進中卒業式
3月	18日	北小卒業式
	24日	旅立ち茶会

主な行事、出来事の写真



幼児さんモンキーパーク旅行
(7月26、27日)



あおば館篠島旅行
(8月2、3日)



わかば館 佐久島旅行
(8月2、3日)



施設長会卓球大会 中高生の部で団体優勝
(8月18日)



青葉お楽しみ会
(10月30日)



青葉お楽しみ会 和太鼓演奏
(10月30日)



施設長会ソフトボール大会
(11月3日)



クリスマス会
(12月23日)



サテライト「三つ葉」完成式テープカット
(12月24日)



「三つ葉」居住棟2棟 完成



施設長会フットサル大会
中高生男子の部で優勝(12月26日)



旅立ち茶会
(令和4年3月24日)

子育て短期支援事業

児童養護施設中日青葉学園あおば館では、日進市、東郷町と提携し、提携市在住の保護者が疾病等の理由により一時的に児童の養育が困難になった際に、該当児童を養育が再開できるまでの間、保護者の代わりに保護、養育を行う「子育て短期支援事業」を実施している。

令和3年度に関しては、コロナの影響もあって、利用がなかったため実績なしとなった。

今後についても、気軽に利用できるサービスとして、地域住民の子育てに関する社会資源として継続していきたい。

社会福祉充実計画

当法人では、平成30年度から厚生労働省より認可をうけ10か年にわたる社会福祉充実計画を策定。

本年度は、計画の4年目として以下のとおりの事業を実施した。

(1) 社会福祉助成事業

当法人のホームページなどで中部地域、関東地域の社会福祉事業実施団体に対し、本事業の案内を実施し令和3年11月1日～12月28日に申請を受け付けた。児童養護施設や小規模住居型児童養育事業、乳児院、放課後デイサービス、生活介護支援事業などから申請があり、配分委員会で承認を受けた10事業に、総額1,365万円を助成した。

(2) 中日青葉学園あおば館 分園型小規模グループケア竣工

中日青葉学園あおば館では、社会的養育推進計画として地域の中で少人数の子どもを家庭的な環境で養育する地域小規模児童養護施設の開設を充実計画最終年度を目標に準備を進めてきた。

一方で現在入所中の児童の地域生活のニーズが高いことや家庭体験の希薄さによる家庭観の持てなさ等が深刻であったことや、令和2年度に用地が見つかったことなどから、計画を前倒しして実施。

地域小規模児童養護施設から分園型小規模グループケアに種別を変更して、本園から1キロ以内で、本園児童が通う小学校の目の前にある用地に男女各1棟と管理棟を建設。本年度は1月から女子棟に5名の児童が地域生活を開始した。来年度4月1日からは、同様に男子6名が生活を開始する予定。

管理棟には、里親フォスタリング事業の拠点や相談室など備え、地域住民の福祉向上の拠点としていく。

▶ 地域における公益的な取り組み ◀

当法人では、中日青葉学園内にフリーダイヤルを設置し、社会福祉士、保育士、心理士などによる地域住民からの子育て相談を実施。

令和3年度の利用実績は下表のとおり。

【新規相談件数】 総数 2件

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0

【継続相談件数】 延べ件数 0件

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【主な相談内容】 ※重複あり

子育て一般	発達相談	不登校	虐待	いじめ	その他
1	2	1	0	0	0

◁ 里親フォスタリング事業 ▷

令和2年度より、愛知県から里親を増やす啓発活動などを行う「里親制度重点エリア啓発及び里親研修事業」を受託し、中日青葉学園内に事務局として「フォスタリングセンター」を設けてさまざまな事業を行っている。重点エリアは年度ごとに代わり、3年度は春日井市と豊明市を重点エリアとし、ショッピングモール等で休日を含めた定期啓発活動を実施。市内の店舗や行政機関と連携を図り、普及啓発に努めた。両市で、毎月1回ずつ夜間や休日に、養育里親体験発表会を開催。里親をしている方に実体験を披露してもらおうと共に、グループに分かれて質疑応答する機会を設けて移行支援につなげ、登録を目指す家庭を増やす活動に取り組んだ。

【啓発事業】

スーパー等	大型ショッピングモールでの啓発	新聞掲載、折り込みチラシ配布など
18回	6回	5回

【SNS等の発信】Instagram Facebook

投稿	フォロワー数
88件	174件

【養育里親体験発表会】※重複あり

実施回数	参加者
11回	延べ168人

【研修事業】基礎研修 登録前研修 登録前演習 更新研修

実施回数	参加者
5回	延べ65世帯

【まとめ】基礎研修 登録前研修 登録前演習 更新研修

移行支援	後期登録	成育歴調査
14世帯	3世帯	5世帯

高額寄付(一般)

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)敬称略、順不同

本 部 (20万円以上)			
寄付者名	市町村名	寄付者名	市町村名
JSA中核会名古屋支部	名古屋市	名古屋競馬馬主会	名古屋市
NTPホールディングス	名古屋市	稲沢市職員互助会	稲沢
WinWin会 会長 今中慎二	名古屋市	サンセイアールアンドディ	名古屋市
おおやま歯科医院	名古屋市	サンヨネ・お客様	豊橋
シーエス薬品OB会	名古屋市	真城	名古屋市
トヨタ紡織 飛躍の会	豊田市	中部経済新聞社	名古屋市
トヨタ紡織株式会社 課長会	豊田市	トヨタシステムズ	名古屋市
トリックス	津市	協栄会・協友会	東海市
ネットヨタ中部	名古屋市	協栄興業	東海市
ライオンズクラブ国際協会	名古屋市	五月会	半田市
愛知県中古自動車販売商工組合	飛鳥村	中部日本書道会	名古屋市
栗野 幸雄	名古屋市	荒川 光夫	名古屋市
愛知県LPガス協会	名古屋市	三浦 重剛	刈谷市
愛知県指定自動車教習所協会	名古屋市	三浦 美保子	刈谷市
愛知県損害保険代理業協会	名古屋市	秋田 秀機	豊山町
諸戸の家	桑名市	知多信用金庫	半田市
松本三良記念福祉会	東海市	中央電気工事	名古屋市
新東工業	名古屋市	北川 朋子	名古屋市
成田山 索の会	犬山市	子ども夢プロジェクト事務局	名古屋市
成田山 名古屋別院 大聖寺	犬山市	東海マツタ販売労働組合	名古屋市
石原住宅	名古屋市	東海主婦のコーラス連盟	名古屋市
全ヤマナカ労働組合	名古屋市	東郷産業	名古屋市
第一生命労働組合	名古屋市	名古屋競馬	名古屋市
萩原電気ホールディングス	名古屋市	名古屋駐車場案内システム協会	名古屋市
白井 文吾	東郷町	尾西美術作家協会	一宮市

*匿名は省かせていただきました

高額寄付(一般)

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)敬称略、順不同

北陸支部 (10万円以上)			
寄付者名	市町村名	寄付者名	市町村名
石川近鉄タクシー株式会社・同労働組合	金沢市	一真会 大口水産労働組合	金沢市
こばと保育園・こばと第2こども園	小松市	石川交通株式会社	金沢市

東海支部 (10万円以上)			
寄付者名	市町村名	寄付者名	市町村名
第40回ふるさと知名人チャリティー色紙展	浜松市	浜松仏教会	浜松市
(有)BI通商	浜松市	竜ヶ岩洞	浜松市
浜松倉庫株式会社	浜松市	行政書士ふじた事務所	浜松市
浜松ロータリークラブ	浜松市	豊岡国際カントリークラブ	磐田市

東京支部 (10万円以上)			
寄付者名	市町村名	寄付者名	市町村名
石原 ふき子	杉並区	ちば興銀ともしびの会	千葉市
鈴木 彪	上尾市	「小さな親切」運動 ちば銀支部	千葉市

岐阜支部 (10万円以上)			
寄付者名	市町村名	寄付者名	市町村名
岐阜県指定自動車教習所協会	岐阜市	岐阜ゾンタクラブ	各務原市
岐阜社会福祉事業協力会	岐阜市	中部日本書道会岐阜支部	各務原市
全日本ロータス同友会岐阜支部	岐阜市	中部日本書道会濃飛支部	高山市
岐阜信用金庫	岐阜市	酒井 恵美子	郡上市
内藤 弘志	岐阜市	イシデンエンジニアリング	恵那市
中川 都夜子	各務原市	石原電機工業	中津川市

*匿名は省かせていただきました

高額寄付(指定)

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)敬称略、順不同

本部 (20万円以上)		
団体名(会社名)	市町村名	贈呈先
愛知県指定自動車教習所協会	名古屋市	東海交通遺児を励ます会
愛知日野自動車 親和会	名古屋市	東海交通遺児を励ます会
愛知県中古自動車販売商工組合	飛島村	東海交通遺児を励ます会
徳弘 妙子	名古屋市	中部盲導犬協会
豊田自動織機	刈谷市	大相撲名古屋場所招待
名古屋溜会	名古屋市	大相撲名古屋場所招待
西浦不動無量寺	蒲郡市	愛知県健康づくり振興事業団
愛知県指定自動車教習所協会	名古屋市	

東海支部 (10万円以上)		
団体名(会社名)	市町村名	贈呈先
Dog Garden HAMA&WAN	浜松市	日本盲導犬協会

*匿名は省かせていただきました

社会福祉法人 **中日新聞社会事業団**

	所在地
本部事務局	〒460-8511 名古屋市中区三の丸一丁目6番1号 中日新聞名古屋本社内 Tel. 052-221-0580 Fax. 052-221-0839
北陸支部	〒920-8573 石川県金沢市駅西本町二丁目12番30号 中日新聞北陸本社内 Tel. 076-233-4644 Fax. 076-233-7831
東海支部	〒435-8555 静岡県浜松市東区葉新町45番地 中日新聞東海本社内 Tel. 053-421-7711 Fax. 053-421-5987
東京支部	〒100-8505 東京都千代田区内幸町二丁目1番4号 中日新聞東京本社内 Tel. 03-6910-2520 Fax. 03-3503-1438
岐阜支部	〒500-8875 岐阜県岐阜市柳ヶ瀬通一丁目12番地 中日新聞岐阜支社内 Tel. 058-265-0283 Fax. 058-263-7010
児童養護・児童心理治療施設 中日青葉学園	〒470-0131 愛知県日進市岩崎町竹ノ山149-164 Tel. 0561-72-0134 Fax. 0561-74-2315